



健康コラム

2023年

9

月号

子宮がん（頸がん・体がん）

子宮がん(頸がん、体がん)は女性特有のがんのなかで乳がんに次いで発症頻度が高いがんです。

子宮がんには、子宮頸部から発生する子宮頸がんと子宮体部の子宮内膜から発生する子宮体がん(子宮内膜がん)があります。

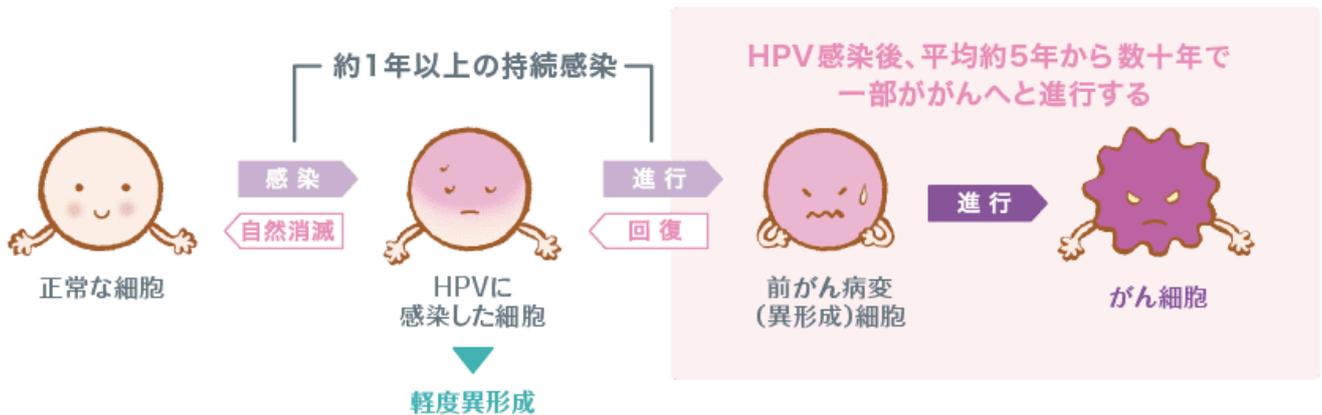
子宮頸がんは、20歳代から出現し始めて、30~40歳代で増加しますが、子宮体がんは50歳代に年齢分布のピークがあります。子宮頸がんの発症は発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV: human papillomavirus)感染が原因である一方、子宮体がんはホルモン依存性の代表的ながんです。



早期発見と早期治療の重要性

子宮頸がんの大部分は、ヒトパピローマウイルスの持続感染が原因で発症しますが、正常細胞は前がん状態を経て、長い時間をかけてがん細胞に進展していきます。

したがって、子宮頸がんは、浸潤がんへと進行する前の状態(前がん病変)で早期発見、早期治療が可能です。早期発見のためには、子宮がん検診を受けることが最も重要です。



子宮体がんは50歳代以降に発症しやすいがんですが、最近は30~40歳代でも起こっています。不正出血や分泌物の変化などおかしいと感じた時には婦人科を受診しましょう。

子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)

ワクチンは子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスの感染を防ぐワクチンです。将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。症状がなくても2年に1度は子宮頸がん検診を受診して、早期発見を心がけましょう。



医療法人社団 相和会